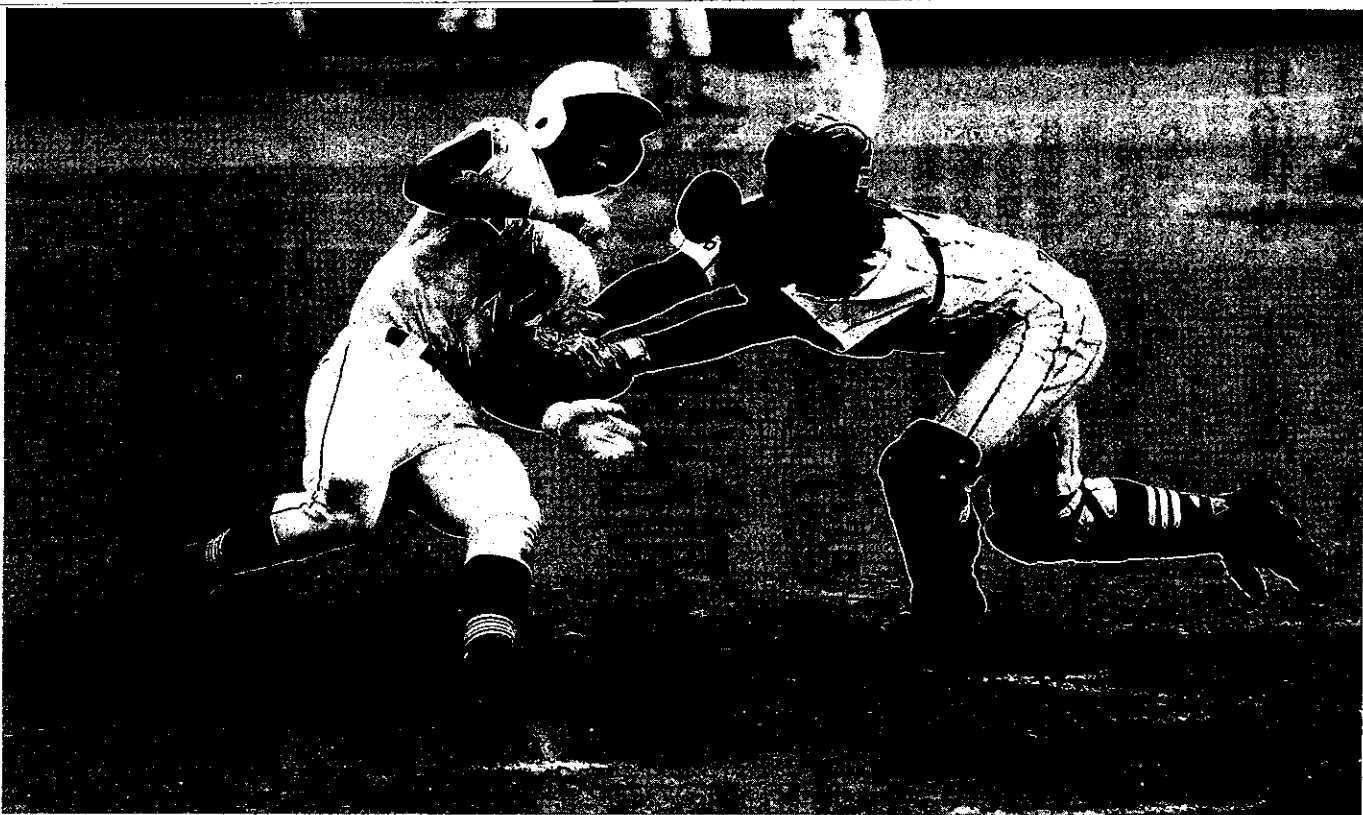


# 岩倉10回猛攻3点



## 高校野球

### 都大会

高校野球都大会は20日、東大会5回戦の前半4試合が行われた。小山台は第2シードの東海大高輪台を破り、夏の大会では3年ぶりの準々決勝進出。岩倉は9回に同点に追いつかれたが延長戦で錦城学園を振り切り、駒大高は雨による中断の影響を受けず世田谷学園を下した。第1シードの帝京は先発木部が12奪三振の好投で葛飾野を抑え込んだ。21日は東大会5回戦の残り4試合が行われ、8強が決まる。西大会は予備日で、22日に準々決勝2試合が予定されている。

## 東京都

# 刺されてもOK「鉄のおきて」

【岩倉6-3錦城学園】岩

倉が三回に辻本、安達の2連続適時打で先制すると、一方の錦城学園は足を絡めた攻撃や永吉の本塁打などでゴッソツ得点。九回裏に錦城学園が同点に追いつき延長戦に突入したが、岩倉は十回相手の四死球や小串の適時三塁打などで3得点を挙げ、逃げ切った。

## 錦城学園

普通なら止まるべきタイミング鉄のおきてに従ったままで

二塁、錦城学園の攻撃。味方の右前打で二塁走者金子蓮選手(3年)は果敢に本塁を狙い、刺された。だが本人は悪びれた様子もなく、誰も責めない。

「少しでもチャンスがあれば走る」とい

昨年夏の合宿で、玉木信雄監督(40)は新チームの方針をこう説明した。「相手が嫌がる野球をやれ」。長打力のある選手がいけない分、執拗に足を使って本塁を狙え、という意味だった。

重視したのはタイミングの

はかり方。フリーバッティングと同時に走り走塁練習で条件反射的に走り出せるよう体に覚え込ませた。「ギリギリ

オッケー」が合言葉。刺されそうになっても、きわどいけん制球を受けても、貪欲に次の塁を狙った。

今大会、1回戦は7盗塁を

(鶴田裕介)

岩倉―錦城学園 5回錦城学園―死1、2塁、谷島の安打で2塁走者の金子が本塁を突くもタッチアウト(捕手・竹中) (20日、神宮第一球場で) 横山誠平撮影